

**令和4年度**  
**日野市発達・教育支援センター**  
**『エール』**  
**活動報告書**

**日野市子ども部/教育部**  
**発達・教育支援課**

# 目 次

<b>1 発達・教育支援センター エールの概要</b>	
設置目的	2
組織・人員図	3
<b>2 活動報告</b>	
エール利用数	4
相談事業	
初回相談（エール総合相談窓口）	4
一般相談	5
心理相談	5
学校派遣心理士	5
発達・知能検査	6
言語相談	6
医療相談	6
障害児相談	7
巡回相談	7
子どものこころ電話相談	7
就学相談	8
入室・入級・転学相談	8
スクールソーシャルワーカー	9
支援事業	
通園事業	10
保育所等訪問支援	10
幼児親子グループ	11
個別専門指導	11
集団指導、トレーニング	11
地域支援事業	
保護者交流事業	12
一時預かり事業	12
講演会	12
その他	
かしのきシート	13
発達支援関係機関連携協議会	13
施設の使用（貸出）	14
視察	14
保健師出前授業「SOSの出し方に関する教育」	14
特別支援教育	15
<b>3 令和4年度のエールの活動を振り返って</b>	17

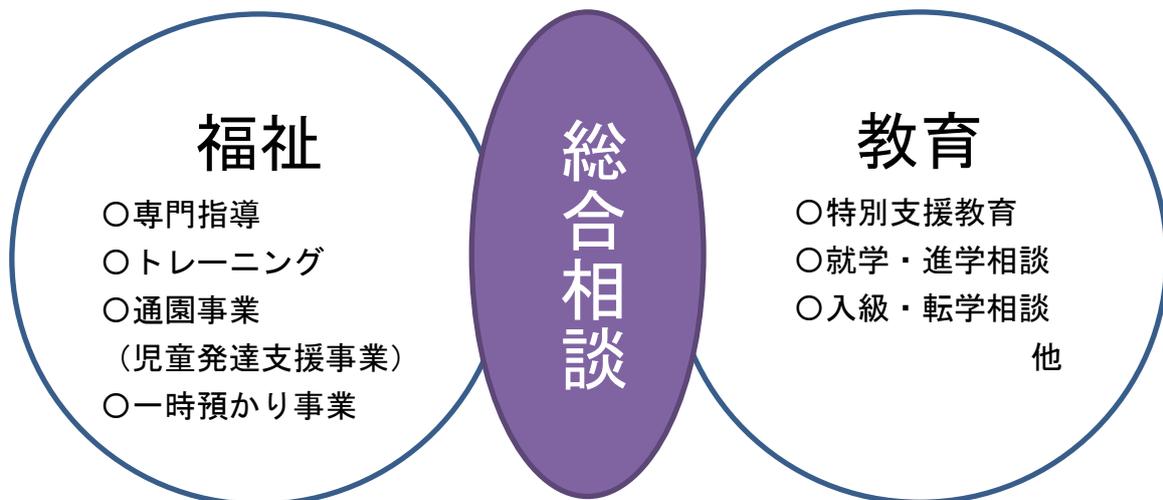
# 1 発達・教育支援センター『エール』の概要

## 設置目的

日野市発達・教育支援センター「エール」は、0歳から18歳までの子どもの発達面や行動面、学校生活面において支援を必要とする子ども及び子どもの育ちについて不安のある家族に対し、福祉と教育が一体となった相談及び支援を行うことにより、子どもの健やかな成長を図ることを目的に、平成26年に設置されました。

福祉と教育が一体となった切れ目のない総合支援

## 発達・教育支援センター『エール』の仕組み

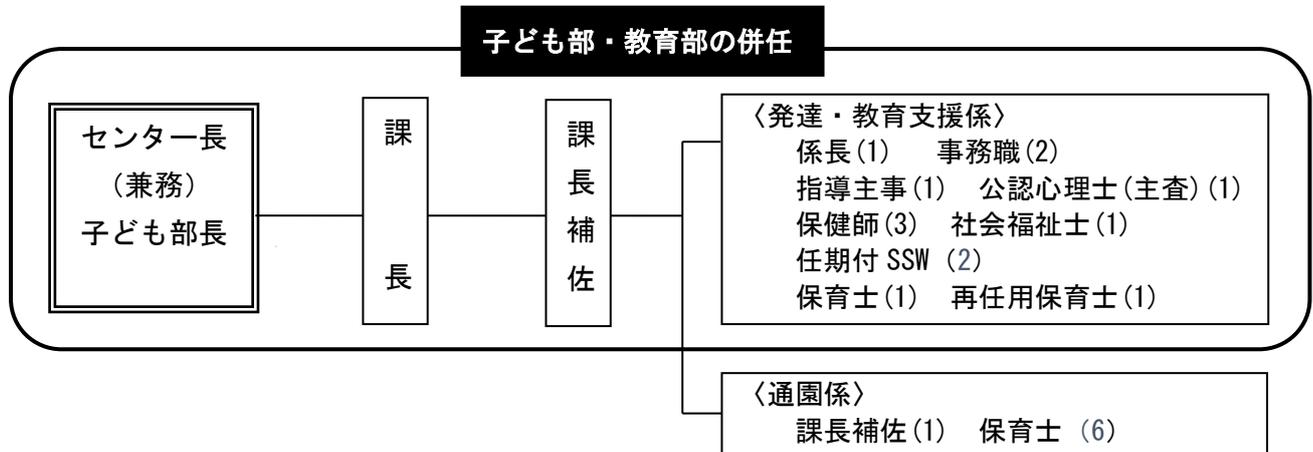


- 発達・教育支援システムにて情報管理
- 福祉と教育の専門家による総合支援
- 市内保育園・幼稚園・小中学校と発達・教育支援システムにて、個別の支援計画（かしのきシート）を作成・管理

## 組織・人員図

\* 令和5年4月1日時点

### 《正規職員》



※令和3年4月より、発達・教育支援課は、健康福祉部から子ども部へ移管になりました。

### 《会計年度任用職員》

職種	人数
特別支援教育総合 コーディネーター	1
心理士	9
言語聴覚士	3
作業療法士	3
保育士、児童指導員	24
就学相談員	4
事務員	1
スクールソーシャル ワーカー	4

#### \* その他

嘱託医、スーパーバイザー（医師、大学教授他）

巡回心理士、学校派遣心理士 等

## 2 活動報告（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

### エール利用数

エール内で実施している各種相談・支援事業を利用した児童・生徒数

#### ■利用者数

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者実数(人)	1,367	1,613	1,447	1,714	2,054
前年度比	▲11.5%	18.0%	▲10.3%	18.5%	19.8%

#### ■利用数の年齢別内訳

(人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0～3歳	349	420	344	394	399
4～5歳	372	375	337	407	449
小学生	457	635	534	683	864
中学生	152	149	178	205	268
高校生	35	34	54	25	71
不明・その他	2	0	0	0	3

### 相談事業

#### （1）初回相談（エール総合相談窓口）

保健師、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士等が初回の電話相談に対応し、子どもにとって適切な相談・支援へつなげるコーディネートを行う。

#### ■相談人数

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者実数(人)	489	560	532	478	700
前年度比	▲11.6%	14.5%	▲5.0%	▲10.2%	46.4%

※初回相談には、1歳6か月児健診、3歳児健診からエールにつながった134人を含む。

## (2) 一般相談

家族が抱える悩みや心配事などを気軽に相談できる窓口として、保健師が対応している。相談は面接だけでなく家庭訪問、電話相談の方法もとり、家庭支援も視野に幅広く柔軟な支援に取り組んでいる。

### ■相談件数

(件)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
面接	98	159	163	136	132
訪問	30	51	39	17	46
電話	—	—	159	185	204

## (3) 心理相談

詳細な子どもの状況を把握するための心理士による相談。発達面や情緒面でのアセスメントをおこない、適切な支援へつないでいる。

### ■来所相談人数

(人)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
初回実人数	282	376	406	447	352
相談実数	887	914	946	1106	986
相談延回数 (回)	2,585	2,719	3,269	3,404	3,051

### ■年齢別相談人数

(人)

相談種別	幼児相談	教育相談			合計
	就学前	小学生	中学生	高校生	
本年度初回実数	203	100	40	9	352
相談者実数	501	325	113	47	986

## (4) 学校派遣心理士

東京都のスクールカウンセラー派遣事業を補完するために配置している。学校にて児童、保護者の面接や、エールでの心理相談を受けている児童の学校での観察等を実施している。

○派遣校 小学校17校 中学校5校

## (5) 発達・知能検査

子どもの発達面や所属園・校での適応状況を詳しくアセスメントするため、発達・知能検査を実施している。エールの相談において心理士が必要性を判断し実施するほか、学校での巡回相談やエール学校派遣心理士の判断により、対象となる子どもにとって必要な検査を行っている。

発達・知能検査は子どもの理解や支援方法の検討に加え、特別支援教室入級や転学にも必要な資料となっている。

### ■検査件数

(件)

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
エール検査	199	240	276	306	293
学校検査	144	150	114	119	138
学校派遣 心理士検査	—	64	37	65	83
総実施数	343	454	427	490	514

※検査種別…WISC-IV、田中ビネー

## (6) 言語相談

言語聴覚士によることばの相談。言語面についてアセスメントをおこない、適切な支援へつないでいる。

### ■来所相談人数

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
本年度初回実数 (人)	113	124	100	122	134
相談延回数 (回)	126	193	154	176	157

## (7) 医療相談

児童精神の専門医が医療的見地から見立てを行い、医療機関への受診の必要性等を判断している。

### ■相談人数

		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
実施回数 (回)	幼児	19	20	19	23	25
	学童・思春期	9	12	0	3	
初回相談者 実数(人)	幼児	18	22	18	40	27
	学童・思春期	16	17	0	8	27
延相談者数 (人)	幼児	56	67	53	57	27
	学童・思春期	18	20	0	8	31

※令和 4 年度より幼児、学童思春期の日を分けずに実施。

## (8) 障害児相談

「児童福祉法」に規定する障害児相談、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に規定する計画相談支援を実施。

### ■障害児談実人数

(人)

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
相談実数	3 6	2 6	2 7	3 1	3 0

## (9) 巡回相談

心理士等専門家が市内の保育園、幼稚園、小・中学校、学童クラブを定期的に巡回し、施設の職員や保護者の相談に応じている。

### ■相談状況

施設名	施設数	巡回数 (回)	個別相談者数 (人)
保育園	5 0	1 5 1	2 4
幼稚園	1 3	3 8	-
学童クラブ	2 9	5 9	2 4
小学校	1 7	5 7	-
中学校	8	2 7	-

※1施設 年間3回 (概ね学期に1回)。学童クラブのみ年2回と個別相談を実施。

## (10) 子どものこころ電話相談

いじめや学校のことなどの悩みについて、子ども本人や保護者から匿名による相談も受けている。

### ■相談件数

(件)

年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
相談件数	1 1	1 3	4	1 0	1 5

※エールの初回相談の内容については除いて集計

### ■相談内容内訳

主訴内容	就学前	小 1 ~ 3	小 4 ~ 6	中学生	高校生	その他	合計 (件数)
不登校 (登校しぶり)	1	0	0	0	0	0	1
いじめ	0	0	0	0	1	0	1
心因性の症状	0	1	2	0	0	0	3
その他	0	1	3	2	3	1	10
合 計	1	2	5	2	4	1	15

## (11) 就学相談

小学校や中学校に就学・進学する子どもの発達の状態、課題の種類や程度など、子どもの特性に応じて適切な学校・学級はどこなのかを相談する。就学相談委員会では、医師や有識者等のそれぞれの専門家が、行動観察や面談等を行い適切な就学先の提案をしていく。

### ■相談件数 (人)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者実数	182	235	192	236	278

### ■就学相談委員会 (人)

相談会参加者数	就学児童	進学児童	合計
	121	91	212

### ■就学相談委員会参加内訳 (人)

開催日	就学園児	進学児童	開催日	就学園児	進学児童
7月25日	11	7	11月14日	61	30
9月26日	19	8	12月10日	-	30
10月17日	28	16	12月15日 (臨時会)	2	-

## (12) 入級・入室・転学相談

小・中学校に在籍中の児童・生徒の抱えている課題や課題の種類・程度など子どもの特性を考慮しながら、適切な学級等はどこなのかを相談する。入室・入級・転学相談会では、臨床心理士や教育関係者等が行動観察等を行い、児童・生徒に合った適切な学級等を提案していく。

### ■相談人数 (人)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用者実数	103	87	87	48	78

※学校における特別支援教室の入室相談を除いた件数。

### ■入級・入室・転学検討会 (人)

学校種別	小学校	中学校	合計
相談会対象者数	228	35	263

■入級・入室・転学検討会参加内訳

(人)

開催日	入室入級相談	転学相談	開催日	入室入級相談	転学相談
6月24日	37	-	1月27日	37	10
8月5日	27	7	2月17日	49	-
9月30日	22	-	6月30日 (臨時会)	-	1
11月25日	30	7	12月15日 (臨時会)	-	1

※言語通級指導学級希望の就学児を含む

※中学校における転学検討会は随時開催。転学相談3人を実施。

### (13) スクールソーシャルワーカー (SSW)

学校等からの依頼によりスクールソーシャルワーカーを派遣することで、不登校等の課題を抱えた児童・生徒を取り巻く環境へ働き掛けを行い、福祉関係機関等とのネットワークも活用して学校の支援体制の充実と課題解決への対応を図っている。

■対応件数

(件)

年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
学校数	15	7	17	8	17	8	17	8	17	8
対応件数	23	42	47	62	59	60	69	79	73	60
相談のみ 件数			88	43	69	38	44	53	37	20
面接件数	1,600		1,965		1,687		1,244		1,071	
電話相談	2,989		2,379		3,120		2,576		1,518	
訪問件数			1,415		1,198		793		605	

■居場所支援事業

○ひよっこり

学校やわかば教室へ行ってない各SSW担当の児童生徒を集め、交流の場として開催している。集団や同世代との対人関係に空白のある児童生徒が再度社会のネットワークへ参入していけるよう、遊びのプログラムや声掛けを工夫している。

○にっこり

ひよっこりの発展型として開催した展示会。SSW担当の児童生徒が作成したイラストや写真などをエール内で展示。来所者や職員に向けて開放し「いいねシール」をつけて児童生徒へ返却することで、自己効力感の向上を図った。

◆実施回数

(回)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ひよっこり	2	3	7	13	9
にっこり	0	1	1	1	1

# 支援事業

## (1) 通園事業

児童福祉法に基づく児童発達支援事業として通園事業「きぼう」を実施。

就学前の子どもを対象に、集団生活の中で遊びや体験をとおして、生活習慣の基礎を作り社会性を身につける支援を行っている。保護者同伴日も設け、保護者支援も実施している。

### ■通園クラス、人数

クラス名	クラス数	利用者実数（人）
3歳児～5歳児クラス（定員35）	5	35
併行クラス 4, 5歳児	4	13

※2歳児クラスはR元年度で終了

### ■主な行事

行事	内容	実施状況
心理士との懇談会	心理士を交えての保護者懇談会（年4回）	実施
夏のお楽しみ会	季節の行事に親しむ会	実施
療育参加日	休日に保護者が参観・参加できる日（年2回）	1回実施・1回中止
運動会	子ども、保護者も参加した運動会	※
秋の遠足	立川昭和記念公園へ保護者参加の遠足	実施
動物ふれあい訪問	リトルホースとのふれあい体験	実施
冬のおたのしみ会	季節の行事に親しむ会	実施
きぼうランド	職員が設定したコーナー遊びを楽しむ行事	実施
冬の発表会（年長児）	保護者の前で表現遊びを行う行事	※

※新型コロナウイルス感染症の流行抑制で、園児のみの参加、家族1人までの参加等として実施。

## (2) 保育所等訪問支援事業

児童福祉法に基づく障害児通所支援の一類型として実施。訪問支援員が保育園等を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援を実施。（令和2年4月開始）

### ■事業利用者数

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用実数	5人	6人	10人

### (3) 幼児親子グループ

乳幼児健診や心理相談等から、ことばの遅れや行動面等で心配のある子どもを対象に、親子で参加する遊びのグループを実施。

#### ■参加人数等

対象年齢	実施グループ数	参加者実数（人）	参加者延数（人）
1歳7か月～2歳1か月	2	33	111
概ね2歳	2	21	164

### (4) 個別専門指導

言語指導では、言語聴覚士が発音や言葉の遅れ、吃音についての指導を行っている（年少～年長）。  
身体・活動指導では、作業療法士が主に身体の動かし方や、コミュニケーションの取り方、遊びについて指導を行っている（年少～小学校2年）。

#### ■指導人数

(人)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
言語指導実数	98	86	99	161	151
言語指導延数	426	315	526	888	792
身体・活動指導実数	206	254	257	273	297
身体・活動指導延数	1,728	1,829	1,681	1,884	1,473

### (5) 集団指導、トレーニング

初期療育グループは2歳・3歳児を対象に、かるがもとひよこグループに分かれ、かるがもは幼稚園就園前に少人数で親子で活動している。ひよこは発達がゆっくりな子どもを対象に親子で活動している。

ライフスキルトレーニングでは、対人関係や集団行動が苦手な中・高生が社会の中で必要なスキルを学んでいる。ペアレントトレーニングでは、保護者が子どもへの関わり方をグループで学んでいる。

#### ■参加人数等

事業名	コース数	参加者実数(人)	参加延数(人)
初期療育グループ(2・3歳児対象)	4	41	395
幼児スキルトレーニング(年長児)	3	21	286
ライフスキルトレーニング(高校生)	3	3	56
ペアレントトレーニング	3	15	67
ペアレントトレーニングフォロー	2	4	4

## 地域支援事業

### (1) 保護者交流事業

保護者同士が支え合える仲間づくりを目的に交流事業を実施している。エール内には親の会などが利用できる交流室を設置している。

#### ■主な事業

事業	内容	実施回数
各種交流の会	各種グループやトレーニングに参加された方の同窓会や保護者会	1
交流室貸出	保護者同士で集まる際に部屋を提供	6

### (2) 一時預かり事業

障害や発達に遅れや偏りがある子どもの一時預かりを実施。対象児は2歳から就学前までが対象。利用の際には事前の登録が必要になる。

#### ■利用人数

(人)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用実数	91	81	82	92	77
利用延数	741	630	653	1,008	909

### (3) 講演会

発達障害に関する理解及び啓発のため、市民向けの講演会を開催。

開催日	テーマ	講師	参加人数(人)
3月17日	発達障害のある子どもが生きやすくなる「自己理解」とは ～自立に向けて今からできること～	岩本 友規 氏 明星大学発達支援センター 研究員	会場(エール) 22 オンライン 69 計 91

## その他

### (1) かしのきシート

0～18歳までの支援内容を切れ目なくつなぐ仕組みである。

幼児期から保育園、幼稚園、小・中学校での様子や支援を受けた内容を、就学・進学先に引き継いでいくことにより、一貫した切れ目のない支援を実現する。小・中学校では、個別の教育支援計画をかしのきシートに統合し、福祉と教育が一体化した仕組みを作っている。

かしのきシートを作成、保管をするために、発達・教育支援システムを構築し、市内の保育園、幼稚園、小・中学校が、シートの作成や参照をおこなっている。現在76拠点（R5.4.1現在）がシステムで接続している。

#### ■シート作成者数

(人)

年度		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
作成者数		1,618	1,923	2,230	2,462	2,905
内 訳	未就学児	272	277	262	297	336
	小学生	901	1,076	1,216	1,355	1,434
	中学生	332	399	448	464	534
	高校生以上	113	171	304	346	601

#### ■引き継ぎ数

引継ぎ先	引継ぎ数(人)	備考
保育園・幼稚園	3	
学童クラブ	38	
放課後等デイサービス	23	
小学校等(5歳児就学支援シート)	286	かしのきシート175 就学支援シート111
中学校等(小6進学支援シート)	207	かしのきシート195 進学支援シート12
高等学校等(中学3年生)	115	*高等学校への引継ぎは、中学校及び保護者からの引継ぎを含む
大学、専門学校等(高校3年生)	0	

## (2) 発達支援関係機関連携協議会

発達支援に関する幼稚園や保育園、小・中学校、地域の代表者など関係機関を招集し、相互の機能や役割、子どもの発達や支援に関する情報を共有するために実施している。

会議種別	日程	議題
全体会議	7月11日(月)	R3年活動報告、その他発達支援に関する意見

## (3) 施設の使用(貸出)

地域コミュニティ室と会議室を一般開放(有料)。サークル活動を主として地域交流の場として活用されている。

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
貸出回数(回)	214	191	124	169	178
利用者延数(人)	2,029	1,676	916	1,839	1,603

## (4) 視察

福祉と教育が一体化した仕組みについて、全国の自治体、議会から視察を受けた。また、日野市の特別支援教育について、全国の自治体の教育委員会、学校から、エールと市内小・中学校に視察に来た。

### ■視察件数

(件)

年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
エール視察	45	36	0	3	15
特別支援教育	29	17	0	1	0

## (5) 保健師出前授業「SOSの出し方に関する教育」

市内の小・中学校より依頼を受け、保健師が不安や悩み、ストレスへの対処法の出前授業を行う。小学校高学年、中学生が対象。

学校種別	小学校	中学校	合計
実施数(校)	2	2	4
参加者数(人)	194	292	486

## (6) 特別支援教育

特別支援教育とは、幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的なニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うことである。特別支援学級に在籍している児童、生徒だけでなく、通常の学級に在籍し、発達障害等の課題のある児童・生徒に対してもその能力や可能性を伸ばしていく特別支援教育を推進しており、主要な教育施策として取り組んでいる。

### ■市内の特別支援学級の設置状況（令和5年4月）

#### ①固定学級

- ・教育活動全般において特別な支援を必要とする児童・生徒を対象として設置される学級。

小学校	中学校
<b>【知的障害】6学級</b> ・日野第一小学校（さくら組） ・日野第三小学校（ひばり学級） ・平山小学校（わかくさ学級） ・日野第八小学校（たちばな学級） ・滝合小学校（かわせみ学級） ・七生緑小学校（あおぞら学級）  <b>【自閉症・情緒障害】1学級</b> ・東光寺小学校（つぐみ学級）  <b>【病弱】1学級</b> ・日野第五小学校：市立病院内（さやか学級）	<b>【知的障害】3学級</b> ・七生中学校（6組） ・大坂上中学校（10組） ・平山中学校（7組）  <b>【自閉症・情緒障害】2学級</b> ・日野第二中学校（1組） ・日野第三中学校（8組）

在籍児童・生徒数

(人)

種別		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校	知的	149	146	165	156	140
	自閉症・情緒					11
中学校	知的	60	62	64	65	78
	自閉症・情緒	42	44	52	55	56

#### ②通級指導学級

- ・通常の学級に在籍している特別な支援を必要とする児童・生徒に対して、1週間のうち一定の時間に児童・生徒個々のニーズに応じた指導を行う。

<b>小学校【言語障害・難聴1学級、言語障害1学級】</b> <b>【言語障害・難聴】</b> ・南平小学校（せせらぎ学級）【難聴学級併設】 ・日野第三小学校（たんぽぽ学級）
--

利用児童数

(人)

種別		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
小学校	言語	9 6	1 0 1	6 8	7 3	8 6
	難聴	6	5	5	6	4

③ステップ教室（特別支援教室）

- ・通常の学級に在籍している発達障害（高機能自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害等）の生徒に対して1週間のうち一定の時間に児童・生徒個々のニーズに応じた指導を行う。小・中学校全校に設置

利用児童・生徒数

(人)

学校	年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
	小学校		3 4 3	4 2 3	5 3 3	5 2 4
中学校		4 5	7 2	1 1 6	1 2 0	1 2 3

■通常の学級での取り組み

○リソースルーム

リソースルームは、通常の学級に在籍し、特定の教科学習に困難を示している児童・生徒に対し、個別の補充指導等による学習支援を行う部屋である。

小・中学校全校に設置し、令和4年度は、小学校で327人、中学校で122人が利用しました。

○ひのスタンダード

ひのスタンダードは、通常の学級で行う特別支援教育の在り方を示すもの。発達障害等の有無に関わらず全ての児童・生徒がわかる授業など、ユニバーサルデザインを追求する考え方であり、環境の整え方、授業・指導の工夫や在り方、個別支援の方法等を研究している。

### 3 令和4年度のエールの活動を振り返って

#### <令和4年度 新たに実施したこと>

##### ■第6次日野市特別支援教育推進計画の策定

本計画は、第5次日野市特別支援教育推進計画で示した基本理念や推進指針を継承するとともに、「未来に向けた学びと育ちの基本構想（第3次日野市学校教育基本構想）」の趣旨なども含め、特別支援教育に関わる内外の動向を踏まえて、今後5年間で日野市の特別支援教育を更に推進するため、取り組むべき施策を示したものです。

策定にあたっては、学識経験者、市民委員、小・中学校の代表者等からなる策定委員会を立ち上げ計4回の委員会を開催したほか、特別支援学級の保護者へのアンケートやパブリックコメントを実施し、策定しました。

##### ■市内で初めての小学校での自閉症・情緒障害特別支援学級の開設準備

日野市教育委員会は、令和5年4月に日野市内の小学校で初となる自閉症・情緒障害特別支援学級「つぐみ学級」を東光寺小学校に開級しました。本学級は発達障害等の特性により通常の学級での活動に参加するのが難しい児童を対象としています。令和4年度は円滑かつ安定的な開設・学級運営を見据え、準備委員会を立ち上げて開設準備を進めました。

「つぐみ学級」は、1学級定員8名で、教科学習や自立活動を、個別の指導や少人数での指導で進めていきます。学級名称である「つぐみ学級」の「つぐみ」は鳥の名前で、「成長する心」という意味があるそうです。名称は、学級開設に当たり、東光寺小学校の児童が、新しくできる学級に来る友達と、学校生活を楽しみながら、ともに心を成長させていきたいという願いを込めて決めました。

#### <令和5年度に向けて>

##### ■医療的ケア児への対応

近年、学校に在籍する医療的ケア児数は年々増加するとともに、人工呼吸器による呼吸管理等を必要とする医療的ケア児が学校に通うことになるなど、医療的ケア児を取り巻く環境が変わりつつあります。令和3年9月には「医療的ケア児及びその家族に対する支援の法律」が施行されました。この法律では地方公共団体は、医療的ケア児に対して教育を行う体制の拡充等を図ることが求められています。これらの状況から、学校における医療的ケアの体制整備に取り組む必要があります。

令和5年度は学校が安全・安心に医療的ケア児の受入れができるようにするため、教育、医療、保健、福祉などの関係機関で構成する会議体を構築し、学校における医療的ケアへの対応の在り方を示したガイドラインの作成を目指します。

発達・教育支援センター長

中田 秀幸



**令和4年度**

**日野市発達・教育支援センター「エール」活動報告書**

令和5年6月 発行

日野市発達・教育支援センター

〒191-0065 日野市旭が丘2-42-8

電話 042-589-8877

FAX 042-514-8740